

1 対象植物の範囲

本基準案はベンケイソウ科(Crassulaceae)キリンソウ属(*Phedimus* Raf.)の「きりんそう」(和名でキリンソウ、ホソバノキリンソウ及び産地名を付して呼ばれるエゾノキリンソウ等)と呼ばれているアイゾーン種(*P. aizoon* (L.) 't Hart [Syn. *Sedum aizoon* L.])とカムチャティカム種(*P. kamtschaticus* (Fisch.) 't Hart [Syn. *S. kamtschaticum* Fisch.])を対象植物とする。

2 特性審査基準

(1)特性審査基準

重要な形質	番号	形質	定義	調査方法	状態又は区分	階級	標準品種	備考
草姿	1	草姿	植物全体の草姿	観察 図1	直立性 横張性 ほふく性	1 2 3	富山在来 大雪山 ヴァリエガーツム	
	2	分枝性	分枝の発生の多少	観察	少 中 多	3 5 7	新潟在来	
	3	株張り	株の最大幅	測定 (cm)	狭 中 広	3 5 7	富山在来	
草丈	4	草丈 I	地際から植物体最頂部までの高さ	測定 (cm)	低 中 高	3 5 7	ヴァリエガーツム 佐渡在来	
	5	草丈 II	冬期の地際から植物体最頂部までの高さ	測定 (cm)	低 中 高	3 5 7	大雪山	常緑性の品種のみ
茎の形状	6	冬期の茎の伸長程度	冬期間の茎葉の伸長程度	観察	弱 中 強	3 5 7	大雪山	常緑性の品種のみ
	7	茎の長さ I	最長の分枝の長さ	測定 (cm)	短 中 長	3 5 7	ヴァリエガーツム 佐渡在来	
	8	茎の長さ II	冬期の最長の分枝の長さ	測定 (cm)	短 中 長	3 5 7	大雪山	常緑性の品種のみ
	9	茎の太さ I	最長の分枝の中間部の太さ	測定 (mm)	細 中 太	3 5 7	ヴァリエガーツム	
	10	茎の太さ II	冬期の最長の分枝の中間部の太さ	測定 (mm)	細 中 太	3 5 7	大雪山	常緑性の品種のみ
	11	茎の色 I	茎中間部の色	観察	黄緑 淡緑 緑 濃緑 緑褐 赤 赤紫 赤褐 褐	1 2 3 4 5 6 7 8 9		
	12	茎の色 II	冬期の茎中間部の色	観察	黄緑 淡緑 緑 濃緑 緑褐 赤 赤紫 赤褐 褐	1 2 3 4 5 6 7 8 9		常緑性の品種のみ
葉の形状	13	葉の着き方	茎中間部の葉の着生角度	観察 図2	上向き 水平 下向き	1 2 3		

重要な形質	番号	形質	定義	調査方法	状態又は区分	階級	標準品種	備考
葉の形状	14	葉形 I	株中央部の葉の形	観察 図3	I型 II型 III型 IV型 V型	1 2 3 4 5		
	15	葉形 II	冬期の株中央部の葉の形	観察 図3	I型 II型 III型 IV型 V型	1 2 3 4 5		常緑性の品種のみ
	16	葉の湾曲の程度	株中央部の葉の横断面の湾曲の強弱	観察 図4	内曲 平 外曲	1 2 3		
	17	葉の反りの程度	株中央部の葉の縦断面の反り	観察 図5	内曲 平 外曲	1 2 3		
	18	葉の鋸歯の有無	株中央部の葉の鋸歯の有無	観察	無 有	1 9		
	19	葉の鋸歯の形	株中央部の葉の鋸歯の形	観察 図6	円鋸歯状 鋸歯状 歯状 重円鋸歯状 重鋸歯状	1 2 3 4 5		
	20	葉の鋸歯の大きさ	株中央部の葉の鋸歯の大きさ	観察	小 中 大	3 5 7	富山在来 新潟在来	
	21	葉の先端の形	株中央部の葉の先端の形	観察 図7	鋭形 鈍形 円形	1 2 3		
	22	葉の色 I	葉表面の緑の色	観察	黄緑 淡緑 緑 濃緑 緑褐	1 2 3 4 5		
	23	葉の色 II	冬期の葉表面の緑の色	観察	黄緑 淡緑 緑 濃緑 緑褐	1 2 3 4 5		常緑性の品種のみ
	24	葉のアントシアニンの着色部位	冬期の葉のアントシアニンの着色部位	観察 図8	無 縁 先端 上半面 基部 下半面 全体	1 2 3 4 5 6 7		常緑性の品種のみ
	25	葉のアントシアニンの色	冬期の葉のアントシアニンの色	観察	桃 赤 赤紫 赤褐	1 2 3 4		常緑性の品種のみ
	26	葉の斑の有無	斑の有無	観察	無 有	1 9	ヴァリエガーツム	
	27	葉の斑の模様	成葉の斑の模様	観察 図9	掃込斑 脈斑 爪斑 外斑 中斑	1 2 3 4 5	ヴァリエガーツム	

重要な形質	番号	形質	定義	調査方法	状態又は区分	階級	標準品種	備考
葉の形状	28	葉の斑の色	成葉の斑の色	観察	白 緑白 淡黄	1 2 3	ヴァリエガーツム	
	29	葉長 I	株中央部最大葉の葉長	測定 (cm) 図10	短 中 長	3 5 7	大雪山 新潟在来	
	30	葉長 II	冬期の株中央部最大葉の葉長	測定 (cm) 図10	短 中 長	3 5 7	大雪山	常緑性の品種のみ
	31	葉幅 I	株中央部の最大葉の葉幅	測定 (cm) 図10	狭 中 広	3 5 7	大雪山 新潟在来	
	32	葉幅 II	冬期の株中央部の最大葉の葉幅	測定 (cm) 図10	狭 中 広	3 5 7	大雪山	常緑性の品種のみ
	33	葉の厚さ I	株中央部の最大葉の厚さ	測定 (mm) 図10	薄 中 厚	3 5 7	大雪山 ヴァリエガーツム	
	34	葉の厚さ II	冬期の株中央部の最大葉の厚さ	測定 (mm) 図10	薄 中 厚	3 5 7	大雪山	常緑性の品種のみ
	35	最大葉幅の位置	葉長に対する最大葉幅の位置	観察 図11	上部1/3 中間部 下部1/3	3 5 7		
	36	鋸歯の発生程度	葉先端から見た鋸歯発生範囲	観察 図12	上部1/3 中間部 下部1/3	3 5 7		
	37	葉の枚数 I	最長分枝の葉の枚数(着生葉と落葉痕跡を含めた数)	測定 (枚)	少 中 多	3 5 7		
38	葉の枚数 II	冬期の最長分枝の葉の枚数(着生葉と落葉痕跡を含めた数)	測定 (枚)	少 中 多	3 5 7	大雪山	常緑性の品種のみ	
花の形状	39	花序の長さ	花序先端から最下の花序分岐点までの長さ	測定 (cm) 図13	短 中 長	3 5 7	富山在来	
	40	花序の幅	花序の最大幅	測定 (cm) 図13	狭 中 広	3 5 7	富山在来	
	41	花の大きさ	花の最大径	測定 (cm) 図14	小 中 大	3 5 7	富山在来	
	42	がくのアントシアニンの有無	がくのアントシアニンの有無	観察	無 有	1 9		
	43	がくのアントシアニンの色	がくのアントシアニンの色	観察	桃 赤 赤紫 赤褐	1 2 3 4		
	44	花冠裂片の形	花冠裂片の形	観察 図15	披針形 狭卵形 長楕円形 卵形	1 2 3 4		
	45	花冠裂片の長さ	花冠裂片の長さ	測定 (mm) 図14	短 中 長	3 5 7	富山在来	

重要な形質	番号	形質	定義	調査方法	状態又は区分	階級	標準品種	備考
花の形状	46	花冠裂片の幅	花冠裂片の幅	測定 (mm) 図14	狭 中 広	3 5 7	富山在来	
	47	花冠裂片表面の色	花冠裂片表面の色	JHSカラーチャートの色票番号による				
	48	葯の色	葯の色	観察	黄 緑 橙 赤 褐	1 2 3 4 5		
早晩性	49	萌芽の早晩	地上部枯死後の冬至芽の伸長と葉の展開の早晩	観察	早 中 晩	3 5 7	エラコンビアヌム 新潟在来 富山在来	落葉性の品種のみ
	50	開花の早晩生	通常栽培条件下での開花の早晩	観察	早 中 晩	3 5 7		
環境耐性	51	冬期の地上部の枯死の有無	冬期間の地上部の茎葉の枯死の有無	観察	無 有	1 9	大雪山 富山在来	常緑 落葉

(2)特性審査基準 参考図

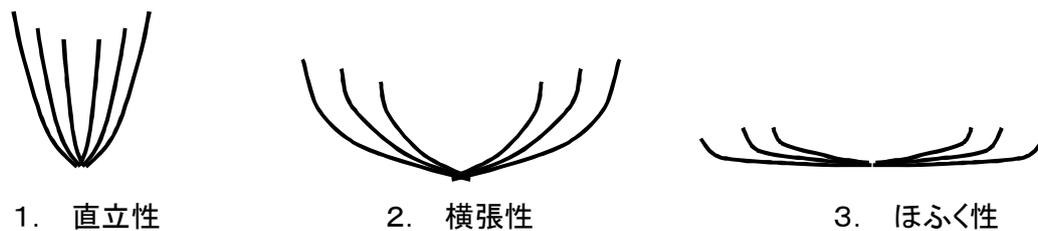


図 1 草姿(形質 1)

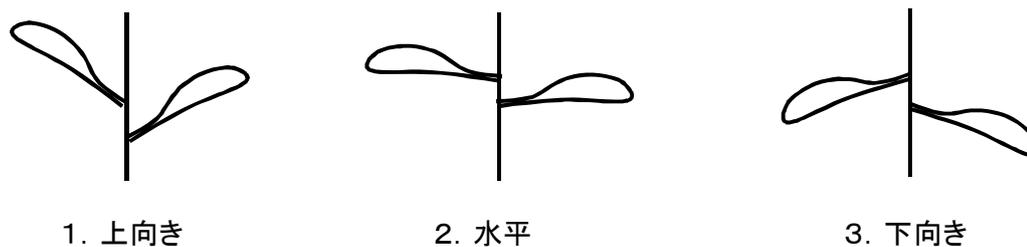


図 2 葉の着き方(形質 13)



図 3 葉形(形質 14・15)

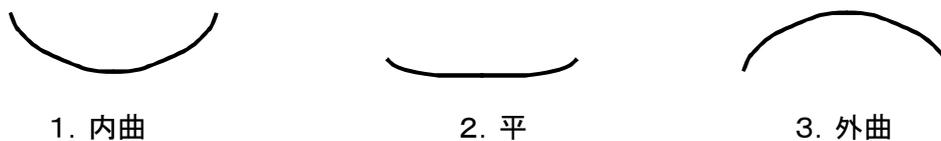


図 4 葉の湾曲の程度(形質 16)

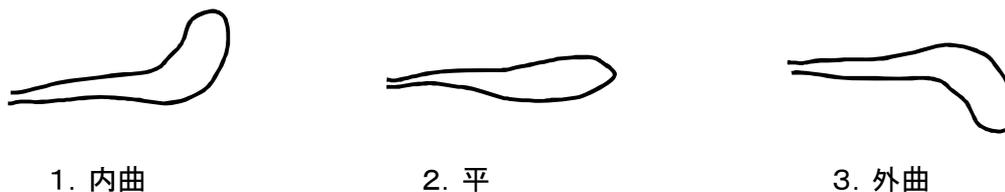


図 5 葉の反りの程度(形質 17)

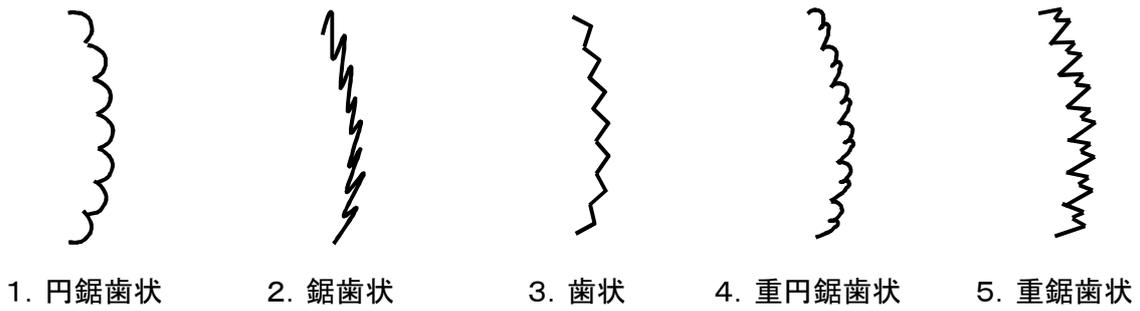


図 6 葉縁の鋸歯の形(形質 19)

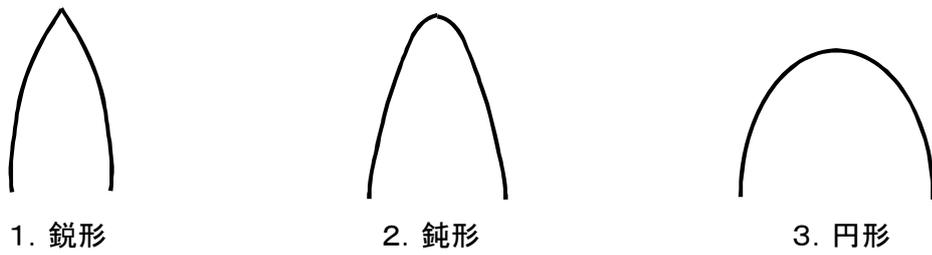


図 7 葉の先端の形(形質 21)



図 8 葉のアントシアニンの着色(形質 24)



図 9 葉の斑の模様(形質 27)

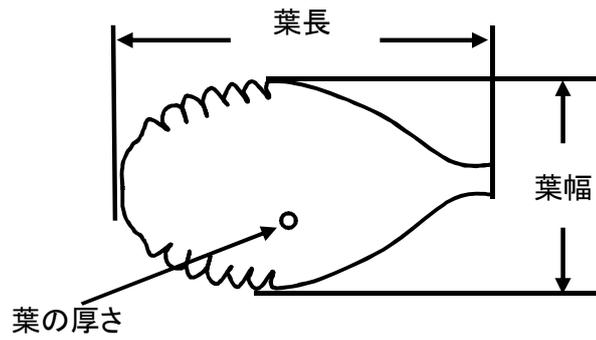


図 10 葉長・葉幅・葉の厚さ(形質 29・30・31・32・33・34)

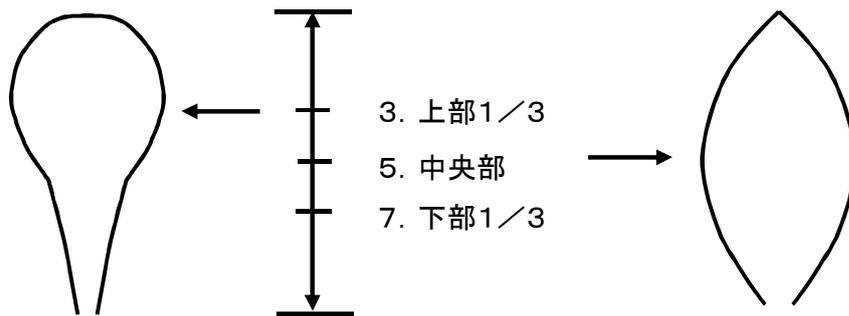


図 11 最大葉幅の位置(形質 35)

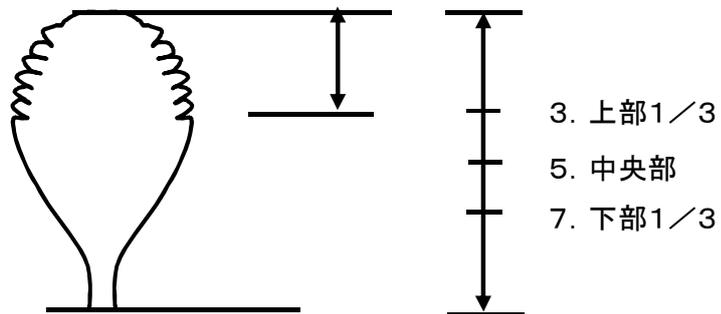


図12 鋸歯の発生程度(形質 36)

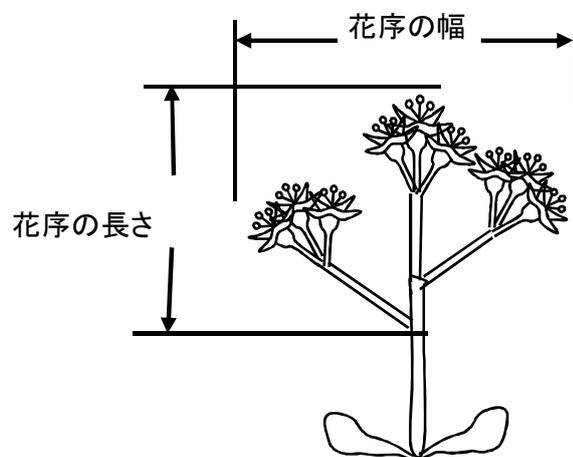


図 13 花序の長さ・幅(形質 39・40)

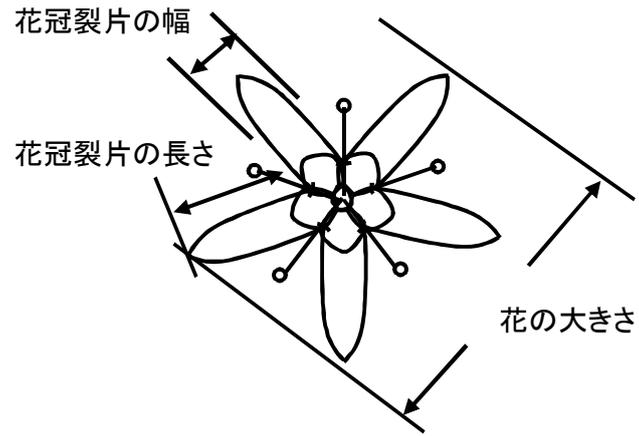


図 14 花の大きさ・花冠裂片の長さ・幅(形質 41・45・46)

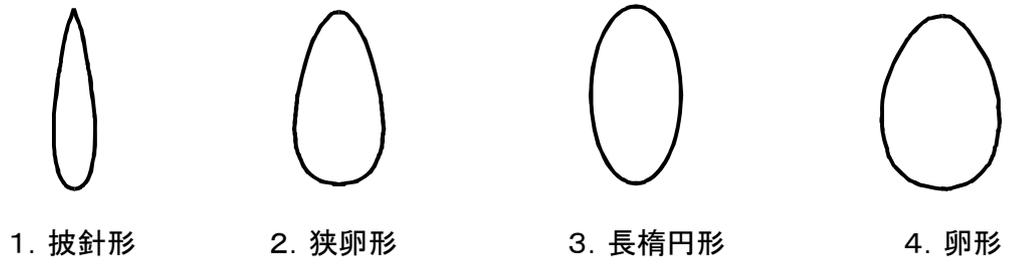


図 15 花冠裂片の形(形質 44)

3 特性検定のための栽培試験方法

(1) 耕種概要

作型	雨除け無加温鉢栽培	
挿し木	春(4~5月)、天挿し、無摘心	
挿し木用土	パーライト、赤玉等の市販用土	
育苗用土	赤玉:5、腐葉土:3、調整ピート:2	
鉢上げ	1回 9cm鉢	
定植	6月下	5号鉢
摘心	無し	
施肥	鉢上げ後	1鉢に緩行性肥料を5g程度置肥。
	生育後期(8月)	1鉢に緩行性肥料を5g程度置肥。
	春芽が動き出す時	1鉢に緩行性肥料を5g程度置肥。
	生育状況を勘案しながら液肥を灌水時に施用。	

(2) 供試個体数 30株

(3) 調査時期 常緑性 翌年1月(厳冬期)
調査期 翌年6~7月 花序の50%程度開花時

(4) 提出種苗 天挿し、無摘心の発根苗
6月上旬

7 参考写真



花



草姿



富山在来



佐渡在来



新潟在来



大雪山



エラコンビアヌム



ヴァリエガーツム